

第4回フィラデルフィア・日本健康科学ダイアローグ

政府、研究機関及び産業界における日米間のアライアンス

2003年2月13日(木)

ロウズ・フィラデルフィア・ホテル

午前8:00 受付・朝食
午前8:30～午後5:00 プログラム(昼食を含む)
午後5:15～午後6:00 ネットワークのカクテル・レセプション

<プログラムの概要>

今回のプログラムは太平洋をはさむ両国における企業、研究機関及び政府間のアライアンスについて話し合う。さらに日米のトップの専門家が、政府のライセンス研究に対するサポートに関して、そしてまた応用研究のコマーシャル化に関して検討する。スピーカーと出席者のオープンディスカッションにおおいに参加願いたい。

<開会の挨拶>

ポール・ブラッカー トーマス・ジェファーソン大学 学長

<基調演説>

フランク・バルディーノ セファロン 会長 & CEO

米国内においては何がアライアンスを推進しているのか

ロジャー・ロングマン ウィンドヴァー・インフォメーション マネージング・パートナー

日本においては何がアライアンスを推進しているのか

マイケル・デヴリン - マッキンゼー・アンド・カンパニー(東京) パートナー

日本政府の政策はいかに業界構造に影響を及ぼしているか

岩屋孝彦 - ジェトロニューヨークセンター 厚生部 ディレクター

パネル・ディスカッション：業界・研究機関間の協力関係

ルイス・バーナマン - ペンシルベニア大学 センター・フォー・テクノロジー・トランスファー
マネージング・ディレクター

西澤昭夫 - 東北大学大学院経済学研究科 教授

松見芳男 - 伊藤忠商事株式会社 海外管掌役員付審議役

米国における政府の技術革新に対するサポートについて

レスリー・アレクザンドラ - ノース・カロライナ・バイオテクノロジー・センター 社長 & CEO

将来に関する展望

エドワード・レンツ - モーガン・ルイス・ボキアズ 知的所有権相談役

スポンサー: Cephalon, Cozen O'Connor, GlaxoSmithKline, IMS Health, Morgan, Lewis & Bockius, Omori and Yaguchi USA

「フィラデルフィア・日本健康科学ダイアローグ」とは・・・

2000年3月に第1回が行われたこのセミナーは、日米両国のヘルスケア業界関係者、及び学術研究者を招き活発な意見交換をすることで、両国に存在するヘルスケアの問題点、また可能性について意識を高めることを目的とし年1回開催されている。